

平成17年度 基盤研究(A・B・C)(一般)研究計画調書(新規)

注1. 別途平成17年度基盤研究(A・B・C)(一般)研究計画調書作成・記入要領(鶯色)を参照してください。

注2. ※印の欄は研究機関において記入してください。

基盤研究		A・B・C	審査区分	一般	※機関番号		
					※整理番号		
審査希望	分野	社会科学	分科	社会学	細目	社会学	
	細目番号(4桁)					3801	
部門	分割番号	総合・新領域系	A・B	分割番号が付されている細目を選択した場合、			
		基盤研究(C)	1・2	どちらかに必ず○を付すること(「作成・記入要領」2.を参照)			
ふりがな	にしざか あおぐ		所属研究機関		明治学院大学・社会学部・教授		
研究代表者氏名	西 阪 仰 印		・部局・職				
研究課題	生殖医療現場における医療専門家と患者・妊婦との相互行為: 知覚と表現						
研究経費	年度	研究経費(千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
	平成17年度	1,600					
	平成18年度	1,100					
	平成19年度	700					
平成20年度							
総計	3,400						
研究組織 (研究代表者及び研究分担者)(研究分担者も研究代表者としての資格を有する者であり、本研究計画に常時参加する者です。)							
氏名(年齢)	所属研究機関・部局・職	現在の専門	学位	役割分担 (本年度の研究実施計画に対する分担事項)	平成17年度 研究経費	エフォート	
西阪 仰 (47)	明治学院大学・社会学部・教授	社会学	文学博士	総括・データ収集・データ分析・報告書作成	(千円) 2223	(%) 50	
高木 智世 (35)	筑波大学・大学院人文社会科学部・専任講師	言語学	言語学博士	データ収集・データ分析・報告書作成	0		
研究協力者 川島 理恵 (29)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院・社会学専攻・Ph.D. 候補生	社会学	社会学修士	データ収集・データ分析・報告書作成			
合計 2名				研究経費合計	2223		
基盤研究(A・B・C)	研究機関名	明治学院大学		研究代表者氏名	西阪 仰		

研究目的

- ①科学研究費の交付を希望する期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか、
 ②当該分野におけるこの研究(計画)の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義、
 ③国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、
 ④平成17年度において継続して科学研究費補助金以外の研究費(他府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費)の助成を受ける場合は、当該継続研究課題と本研究課題との相違点、
 について焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。

①どこまで明らかにしようとするか: この研究では、実際のやりとりの録画(ビデオ)において観察できることを積み上げていく。「会話分析(Conversation Analysis)」の手法に拠りながら、焦点は、その実際の相互行為のなかで、そこに参加する当事者たちの行為が、そして、彼らのアイデンティティおよび知識が、彼ら自身によりどう知覚され経験されていくか、に置かれる。本研究では、あえて、あくまでも録画データに導かれるままに(もちろん鍛えられた技法によってではあるが)進んでいくことになるだろう。一方、とくに生殖医療をテーマとして選ぶにあたり、いくつか導きの糸となる「素朴な」問題がある。(1)医療が現代社会においてきわめて重要な意味を持つことは、すでにフーコーが「社会の医療化」という標語のもとに明らかにした。このことをまずは出発点にしたい。そのなかで、とくに生殖医療は「社会の医療化」が端的に現われる場所である。出産は、近代以前は必ずしも医療の対象ではなかった。今日では、かつては医療の外にあった「助産婦」の活動も医療制度のなかにある。あるいは、今日では「不妊」が医療の対象(「不妊症」)になっている。「不妊」が問題であるのは、結婚した女性は子どもを生むべきだという社会通念のゆえであるにもかかわらず。「医療化」という現象が最も端的に見られる場所である限りにおいて、生殖医療の現実とは現代社会の現実である。(2)現代社会は、常に「先端」である技術を追い求める社会である。そして、その「先端技術」の多くは、生殖医療と深い係りを持っている。それは「ES細胞」や遺伝子技術をめぐる状況を見ても明らかである。ES細胞は、医療技術一般に関わるものであるが、一方、それが胎細胞と係りをもつ以上、胎児をどう「知覚する」という生殖医療の現場における、極めて日常的な問題と密接に関連している。(3)生殖医療は、同時に、極めてジェンダー化された場面である。生殖医療の現実とは、ジェンダー化された現代社会の現実でもある。一方で現代社会の特徴を端的に表現する現場は、同時に他方で現代社会の「影」のような存在になっている。多くの人は生殖医療について語ることで自他に「照れ」「羞恥」を感じている。実際「男」の私(西阪)が「産婦人科でビデオを撮っている」と言うとき多くの女性は驚き(あるいは呆れ?)、多くの男性は笑う。いわば生殖医療は、現代社会の内部に織り込まれた「外部」である。生殖医療の現実を見ることは、現代社会のもう一つの「オリエンタリズム」(サイード)を直視すること、すなわち現代社会の内部で現代社会を支える「他者」の声に耳を傾けることでもある。以上は、すべて社会の「大問題」に関わることであるが、本研究は、生殖医療の現場で実際に起きていることの録画を分析することで、当事者たちが、胎児を、自分/他人の身体を、(身体に「当たり前」のように接続される超音波診断装置などの)技術を、女性であることを、どう「知覚し」「経験し」「意味づけ」しているかを明らかにする。

たしかに、生殖医療という枠組み自体、現代社会の様々な問題を端的に表わしている。実際、「更年期診療」「思春期診療」において身体的なケアだけではうまく治療ができないことを「認識」し、メンタルなケアを取り入れる医師たちがいる。彼らの試みを、「患者」の生活全体の医療化だと批判することは、容易である。しかし、すでに医療現場に何度も足を運んでいる申請者たちは、彼らの真摯な試みへのこのような批判は、むしろ安易であると考えられる。彼らが直感していることの「真理契機」(アドルノ)をすくい取りながら、例えば医師と患者のコミュニケーションはどうすれば両者にとってより満足のいくものになるかといった、「よりよい医療の可能性」についての提言も、積極的に進めようと考えている。実際、パートナーとの性生活・妊娠中絶の経験などが話題になり、あるいは通常もっとも強く他人から隠される身体部位が相手の前に露出される。現代社会において「影」として知覚される部分が、当事者たちにとっていわば「デリケートな」話題として現われ、そのために、そもそも婦人科を訪れるという「出会いの開始」を含めた、様々なコミュニケーション上の難しさが(当事者たちに)経験されている。そのことが治療自体を困難にしていることも、まれではない。当事者たちの「知覚」と「経験」の解明は、当事者たちの「表現」、とくに患者による問題の提示、医師による治療方針の提示などのやり方に関する積極的な提言に結びつくと思える。生殖医療の現場にいる当事者たちが直面する困難の解明とそれへの対処の提言が本研究を支える両輪となる。

②特色: この研究では、実際に生殖医療の現場に足を運び、そこでの相互行為をビデオに収める。かつて人類学者のBrigitte Jordanが「4つの文化」における出産場面をビデオに録画した。しかし、本研究においては、録画は単に補助的な素材ではなく、むしろ、そこに見て取れる具体的なやりとりのなかで、実際に何が行なわれているかを、会話分析の手法を用いて分析していく。このような試みは、いままで一つもない。

③位置づけ: とはいえ、決して荒唐無稽な試みでは、もちろんない。問題関心は、むしろ、サイードやフーコーや、フェミニズム社会学によって照らし出された「大問題」に連なるものであり、一方、手法は、すでに医療場面(おもには内科・小児科・外科)の会話分析の蓄積(アメリカではHeritageやMaynardを中心とした研究、イギリスでは、Heathらの研究がある)を踏まえたものである。この蓄積を踏まえて、一方で現代社会の問題と、他方で個々の女性たちの現状と問題を解明しながら解決するべく前進しようとするのが、本研究の目的である。

④他の助成: 代表者の所属期間(明治学院大学社会学部附属研究所)から、本年度に引き続き、40万円ほどの助成がなされる予定である。これは、会話分析そのもののスキルの向上のための集中セミナーの企画に当てられる。本研究と、「会話分析」という点で関連するが、研究そのものの目的・内容は、まったく異なる。

準備状況等 (Ⅰ～Ⅲを区別するため、点線を引いて分けてください。)

- Ⅰ. この研究課題の準備状況等について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。
 なお、この研究課題に密接に関連した研究課題の成果を発展させる場合は、そのことについて記入しても差し支えありません。
- Ⅱ. 研究を実施するために使用する研究施設・設備等、現在の研究環境の状況について記入してください。
- Ⅲ. 海外共同研究者がいる場合の相手国研究者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況について記入してください。

Ⅰ. 準備状況

①**課題について** 前述のとおり、平成14年度から16年度までの科学研究費助成金による研究において、西阪の研究グループは、道具と身体が直接に近接されるフィールドとして生殖医療の現場を選んだ。その(現在進行中の)研究では、あくまでも相互行為の組織における道具と身体の配置に焦点を当てたものであるが、この研究を進めるなかで、上に「研究目的」として述べた課題を得ることができた。したがって、本研究の課題は、具体的なフィールドにおける経験にもとづくものであり、決して想像だけによるものではない。とくに、生殖医療の様々な問題(社会学者が「医療化」と呼ぶ問題も含む)に直面しそれぞれにその問題を分析しながら、様々な改革を試みている医師や助産師らから聞き取りを行なう機会も幾度かあり、そのなかから、医療制度の外に立つ社会学の取り組むべき問題が、具体的に明らかになった。本研究の課題の背後には「現場の声」がある。

②**データについて** すでに首都圏の4つの産婦人科医院と1つの助産院において、約30名の妊婦・患者の協力を得て、約60の診察・健診場面を録画することができた。「不妊」を主訴とする1人の患者については、初回診察から約2年半、長期にわたる診察の経過を収録することもできた。本研究においては、このデータコーパスを積極的に用いる予定である。しかし同時に、次の点においてデータを拡充する必要がある。第一に、産科・婦人科といっても、患者の主訴は様々である(月経の不順から「不妊」まで)。手元のデータを分析するなかで、患者の主訴の多様性に見合った多様なデータを、しかも体系的に得ていく必要を実感している。第二に、助産院では一人の助産師による(数名の妊婦の)健診を録画したのみであるし、また婦人科の診察では、三名の医師の協力を得ているものの、うち一名は一人の患者の診察(3回分)のみであり、他の二名は同じ病院の医師である。とくに婦人科においては患者(の主訴)が多様であるだけ、それに見合った多様な医師・助産師の参加・協力が望まれる。実際に、この間これだけの医院から協力を得るのにも多くの困難があったが、とくに今回は生殖医療そのものに焦点を当てていく以上、データコーパスを拡充する必要があるだろう。

③**分析技術について** 本研究は、実際に行なわれたやりとりを詳細に書き取り、当事者たちがそこで何を行なっているかを仔細に分析する「会話分析」の手法を用いる。当事者たちが何を行なっているかを記述していくこと、そのこと自体も決して容易いことではない。データコーパスのなかから、際立った現象を集め、その現象の特徴を記述していくことは、さらに高度な分析技術を要する。申請者の西阪は、1993-1994年のボストン大学滞在においてGeorge Psathas教授(会話分析の標準的教科書Conversation Analysis (Sage)の著者)のもとで会話分析を体系的に学んだあと、2001-2002年、UCLAで会話分析の創始者の一人Emanuel A. Schegloff教授らから直接分析方法を学んだ。さらに2003年のUCLAにおける上級者向けの2週間の集中セミナー(講師としてSchegloff教授とともに、John Heritage教授とGene Lerner教授が参加)に参加し、さらに同年Lerner教授による2週間の集中講座を所属機関で開催するなど、分析技術の向上を図ってきた。分担者の高木も、UCSBでLerner教授の指導の下で博士論文を執筆し、2002年にUCLA上級者向け集中セミナーに参加するなどしている。

Ⅱ. 研究環境

本研究において必要なものは、ビデオカメラ、高性能マイク(ワイヤレス)、動画の取り込み・編集の可能なコンピュータ、テープのダビング・編集用機器等である。申請者の西阪の研究室には、基本的な機器は整っている。ただし、現在、ワイヤレスマイクを搭載できるビデオカメラは一台しかなく、共同研究者間でカメラ使用の機会が競合することもある。データを拡充していくことになると、とくにビデオカメラがもう一台必要になるだろう。また最終年度の分析の取りまとめに際し、コンピュータももう一台必要となるだろう。

研究分担者に分担金を配分する必要性 (公募要領8頁を参照)

研究代表者と異なる研究機関に所属する研究分担者に、例えば、遠隔地に所在する研究機関において実施する一定規模の分担研究などのため、研究費の一部を配分し、当該研究分担者の所属研究機関において経理管理を行わないと分担部分の研究実施が困難な理由を必ず記入してください。

(研究費は、すべて申請者の所属機関において管理する予定である。)

基盤研究(A・B・C)	研究機関名	明治学院大学	研究代表者氏名	西阪 仰
-------------	-------	--------	---------	------

研究計画・方法

〈平成17年度の計画と18年度以降の計画に分けて記入してください。
また、I及びIIを区別するため、Iを記入後は点線を引いて分けてください。〉

I. 研究目的を達成するための研究計画・方法について

①研究代表者・研究分担者の相互関係(役割分担状況)も含めて研究計画・方法を具体的に記入してください。

また、②特に初年度については、例えば、主要設備(現有設備を含む)との関連、旅費については調査予定地域や実施体制、また、謝金等については人数や支援の内容など、経費と研究計画との関連性についても記入してください。③研究計画のいずれかの年度において、「設備備品費」、「旅費」又は「謝金等」のいずれかの経費が90%を超える場合(公募要領7頁を参照)には、当該経費の研究遂行上の必要性について記入してください。さらに、④海外共同研究者(公募要領7頁を参照)との共同研究を含む場合には、その必要性及びこれらの者どどのように共同して研究を実施していくのかについて記入してください。

II. 生命倫理・安全対策等に関する留意事項(該当者のみ)

ヒト遺伝子解析研究、社会的コンセンサス等を必要とする研究及び生命倫理・安全対策に対する取組が必要とされている研究については、対策としてどのような措置を講じようとしているのか具体的に記入してください。

研究計画・方法(平成17年度)

I. 研究目的を達成するための研究計画・方法について

①研究計画・方法

(1) 方法: 本研究では「会話分析」の手法を用いる。集めた録画の音声は、すべて詳細に(言葉の重なり、間合いなどを含め)書き起こす。そのうえで、つねに録画そのものに立ち返りながら、医療専門家と妊婦・患者とのやりとり(相互行為)そのものがどう組織されているかを明らかにする。その際、とくに、(a) それぞれの発話が相互行為の展開に応じてどう組み立てられているか、(b) 個々の発話がどのような行為を構成し、その行為の連鎖はどう組織されているか、(c) 互いが何をしているのかについての理解はどう達成されているか、を一つ一つの発話ごとに検討する。本研究の目的は、生殖医療に独特の相互行為の組織を明らかにするとともに、他方において、その相互行為のなかで、たとえば当事者たちの知識やアイデンティティがどのように知覚されていくかも明らかにしていくことにある。相互行為の組織そのものを明らかにしようとする「会話分析」の、鍛えられた方法なくして、この目的の達成もありえないだろう。

(2) 計画: 4月から5月にかけて、すでに集めたデータを再度検討し、具体的にどのようにデータコーパスを拡充するかを決定する。6月から具体的に協力者との交渉に入り、7月から撮影を開始する。交渉方法として、いま考えられるのは、以下のとおりである。

- ・すでに各方面から紹介をいただいている医師・助産師すべてにまだコンタクトが取り切れていないので、これらの医師・助産師に協力を依頼する。
- ・独特の試みを展開している医療専門家について、すでに協力をいただいている医師らに紹介を依頼する。
- ・現在進行中の研究の最終報告書が2004年度内にまとまる予定なので、その成果を公開し、インターネットなどで研究に関心のある医師等を募る。
- ・妊婦・患者については、医師・助産師の協力が得られた医院において直接、協力を依頼する。
- ・インターネットや他のメディアをとおして妊婦・患者の協力を募ることもありうる。

また、撮影に際しては、フィールドの特殊性から、女性が診察室に入ることになる。撮影およびデータの分析、さらに報告書の執筆において、現在UCLAにおいてSchegloff教授のもとで博士論文を準備中の川島理恵が研究協力者として参加する予定である。

収集したデータは、すぐにコンピュータに取り込むと同時に、言葉をすべて(言葉の重なり、間合い、言いよどみなど一切を含め)書き取る。申請者・分担者・協力者の間で、常に会合を持ちながら、集めたデータを逐一検討する。その過程において、さらにデータをどう拡充するべきかも検討される。データの収集は、7-9月にかけて行なうほか、12月、2-3月にも引き続き行なっていく。

分析方法は、すでに何度も述べているように「会話分析」を用いる。その分析技術の維持・向上のために、上の三者によるデータ分析会のほか、日常の(日本語および英語の)会話を素材にした公開のデータ分析会を定期的に開催していく予定である。また、前述のSchegloff教授らによるUCLAの上級者向け集中セミナーにも積極的に応募していくつもりである。一方、このような特殊な(当事者たちが具体的な課題を持ち、特殊な道具に支えられた)相互行為において、とくに身体の動きに関する分析を進めるため、収集したデータのいくつかを、身振りの分析を含めた会話分析を最も積極的に進めているUCLAのCharles Goodwin教授およびMarjorie Harness Goodwin教授のもとに持参し、両教授を含めたデータ分析会も行ないたい(Goodwin教授らには、これまでも何度も快くこのような会を持っていただいている)。

暫定的な知見も、そのつど学会などで報告し、各方面からの意見を聞きながら、問題を深めることも試みる予定である。具体的には、2005年7月に開催予定の9th International Pragmatics Conference (IPrA会議)において、西阪・高木・川島のこれまでの協力の成果を報告する予定である。また2005年5月に台湾で開催予定のCSCL (Computer Supported Collaborative Learning) の国際会議(たまたま西阪が当会議のProgram Committeeのメンバーである)や、8月にアメリカ合衆国ボストン近郊(Waltham)で開催予定のエスノメソドロジー・会話分析の国際会議(International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis)でも、何らかの形で知見を発表したいと考えている。

研究計画・方法 (平成17年度(つづき))

(3) 役割分担: 申請者の西阪は、本研究計画採用の暁には、研究代表者として研究を総括するとともに、データの分析、成果の報告に積極的に関与する。とくに西阪は、産科における医師・助産師と妊婦との相互行為に焦点を当てながら、超音波診断と(助産師による)触診において、それぞれ胎児(当事者たちはたいてい「赤ちゃん」と表現する)や母体が、当事者たちにどう知覚されるかを明らかにしていく。また、婦人科の診察において用いられる様々な人工物(基礎体温表から超音波診断装置まで)に対する当事者たちの関わりについても、それが当事者間のコミュニケーションの形成に対してどういう役割を果たすかを明らかにしていく。

研究分担者の高木は、データの収集・分析・成果の報告を担当する。言語学者として会話分析に携わるという立場から、言語の働き、とくにの当事者たちがどう自分たちの発話を構成しているかを、仔細に検討する。婦人科の診察においては、とくに「更年期障害」に対するホルモン補充治療の場合など、患者に自分の身体の状況に関する可能なかぎりの自覚を促すような、いわばカウンセリング的なやりとりが見られる。このようなやりとりにおいて、身体条件がどのように表現され、そのような表現が治療方針の決定などにどう影響するかなどを、明らかにする。

研究協力者の川島も、データの収集・分析・成果の報告を担当する。師であるSchegloff教授のテーマの一つである「行為連鎖の組織」に注目しながら、婦人科外来における、行為の相互行為的な組織を検討する。患者による主訴の提示、医師による病歴等の確認、治療方針の提案、治療方針の決定といった行為の連鎖がどう組織されるか、を検討するなかで、「デリケート」な話題に関するやりとりが実際にどのようになされているか(一般的に想定されていることとどのように異なっているか)を、明らかにしていく。

②経費

(1) 備品・消耗品: 撮影にあたり高性能のビデオカメラおよび高性能のマイクシステムが必要となる。すでに西阪研究室に一台当面満足できるシステムが用意されているが、これからデータを拡充していく上で、分担者および協力者が一台ずつ持てる体制が好ましい。現在のカメラ一台の体制では、限られた人的資源のもと、地域的に離れた場所で同時期にビデオ撮影の予定を組めないなど、実際に支障が生じている。カメラは現在もっとも性能の高いSonyのHDR-FX1が望ましい。マイクは、BeatchekのミキサーにSennheiserのワイヤレスマイクを接続する。また、ビデオデータを処理するために高性能なビデオ編集ソフトが必要になる。経費節減のため西阪は可能なかぎりフリーウェアを用いている(実際市販のものよりも性能がよいことが多い)。が、Adobeのプレミアなど最低限の高額ソフトウェアの購入は避けられない。

(2) 旅費: 研究分担者の高木が筑波と東京の間をデータ収集およびデータ分析会のため年間15回往復することが予想される。また研究協力者の川島は、実家のある奈良から東京にやはり10回往復することが予想される。上述のとおりIPrAの会議(イタリアのリバ・デル・ガルダ)への2人分の旅費(西阪の分は所属機関の出張旅費を用いる)が必要となる。さらに、ボストン(8月の学会)およびUCLAへの旅費(西阪と高木の分)が必要である(経費節約のためGoodwin教授の訪問を8月の学会にあわせて行なう)。

(3) 謝金: データ収集に際して、協力者に対する謝金は、診察・健診の内容にもよるが、医師・助産師の場合は(一度に何人かの診察を撮ることになるので)、一回10000-20000円の謝金が必要となり、患者・妊婦に対しては、(極めてプライバシーの露出度の高いデータ収集に協力をいただくので)約5000円の謝金が必要となる。そのほか、医療専門家にもデータを見てもらう必要があるとき(最低3回は予想される)、専門知識の提供に対する謝金が一回20000円必要になる。Goodwin教授を訪ねるときも、謝金ではなくても、少なくとも謝礼品を持参することが予想される。また、下トランスクリプト作成を委託するための費用(5時間分)10万円が必要になる。さらに、学会で発表する原稿のネイティブによる校正のための謝金もしくは委託費が必要になる。

研究計画・方法（平成18年度以降）

平成18年度

①計画・方法 前年度に引き続き、データの収集・データの検討を行なう。いずれも17年度と同様のやり方を踏襲する。18年度末までに、データ収集を完了し、その時点で現在のものを合わせて150の診察・健診を収集することを目指す。

2006年度には、5月にフィンランドのヘルシンキで会話分析の国際会議（International Conference for Conversation Analysis）が予定されているので、そこで中間成果を報告し、問題を深めていきたい。

代表者・分担者・協力者の役割分担も17年度と同じである。

②経費 データ収集が進むにつれ、ビデオデータをコンピュータ上で処理するために、大量の補助的な記憶装置（外付けHDDなど）が必要になる。謝金および旅費については、17年度と同様の支出がある。ヘルシンキに行くために3人の旅費も必要となる。

平成19年度（最終年度）

①計画・方法 データを検討するなかで若干の補足的なデータ収集が必要になることが予想される。この年は研究の最終年度になるので、とくに9月以降は最終成果の報告に向けて、データ分析も形あるものにまとめていく必要がある。そのために、集中的なデータ分析会および各自の知見の相互検討会をもつ。国内外の多くの学会（日本社会学会、日本社会言語科学会、アメリカ社会学会など）で積極的に報告を試みる予定である。年度末には、報告書をまとめる。代表者・分担者・協力者は、それぞれの役割分担に応じたトピックで報告書に成果を執筆する。

②経費 最終年度には、これまで集めたデータの分析を一挙に効率的に取りまとめることが必要になる。そのためには、ビデオデータを処理するために高性能なコンピュータが必要である。本体は、自作コンピュータで経費を抑えることができるが、DVの取り込み・編集のためにCanopusのDVStormを搭載する必要がある。分担者と協力者が同時に使用できる環境を整えるために、（現在西阪が使用しているものに加えてさらに）さらに1セット必要である。またデータ分析をまとめていく作業のために、高木と川島はそれぞれ5回ほど東京と筑波・奈良を往復する予定である。さらに、各学会への旅費が必要となる（ただし国内学会はそれぞれの所属機関の出張費を用いる）。UCLAへの旅費（西阪と高木分）も必要である。補足のデータ収集のために、若干の謝金が必要となる。報告書作成のための印刷費が必要である。

以上

II 人権保護のための方針

本研究では、聞き取り調査のみならず、実際に人びとの活動を録画したのもデータとして用いる予定でいる。そのため調査協力者の人権の保護は極めて重要な課題と認識しているので、あえてこの点についても記載する。本研究における方針は次の通りである。

- ・調査の時点で調査に先立ち、調査協力者に、当該の聞き取り・録画が「社会学研究のため」のものであることを文書（依頼書）で明確にした上で、協力の同意をえる。またその際、「調査の目的」「手順」「データの管理法」「協力者が留保する権利」をも同じ文書の上で明らかにする。
- ・調査の時点で、協力への同意をえるのに先立ち、再度口頭で「調査の目的」も説明する。ただし、調査の性格上「調査の目的」を事前に明かすことができない場合は、調査終了後ただちにそれを明らかにし、その上で協力者が同意を取り消したいときは、ノート・録音・録画テープはその場で破棄する。
- ・調査終了の時点で、データの使用方法に関し書面で承諾をえる。研究上の使用、論文上での使用、授業での使用、学会発表での使用、一般向け講演会での使用の一つずつについて、それぞれ、データそのものの使用、トランスクリプトの使用について文書で尋ねる。
- ・本研究の成果を学会および雑誌・書籍等で発表する場合、とりわけ、再現された聞き取り部分が本人の体験をそのまま伝えている場合や、協力者の画像をとまなう場合など、上述の承諾書における承諾とは別に、そのつど調査協力者からのその部分の掲載について逐一同意をえる（ただし、数量化や断片化など十分な匿名化の処置が施されているときは、このかぎりではない）。いずれにしても、画像のかわりに手書きの描画を用いたり、可能なかぎりの匿名化を施すことで、不要なプライバシーの露出を避けるよう心がける。

